



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはくくむ

FREE AWAJI BOOK 8890

フリーアワジブック 8880
2018.12.01 発行

発行：一般社団法人 読書エリマエネットワーク
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105 グラフデザインズ1311
Tel 03-3526-3883 Fax 03-3526-0090 www.waterras.com



編集：グッドモーニング株式会社 水代 優
www.goodmornings.co.jp

¥0

2018 December No.24
Call me FAB!

FREE AWAJI BOOK 8890



特集
神田的
インドアライフ



Our Winter Time

からっ風が吹きすさぶ季節。

だけどおこもりの楽しみが、この街にはたとあるもんね。

Text Daisuke Furuya Photo Ayano Inoue



カオスが転じて美しい店内。キッチンでは小林さん及び彼女が集めたモノたちがお出迎え。

オルタナティブスペース

感性に響くアレやコレがある、神田のまちの多目的室

ここに来れば、何かしら新鮮な感覚を覚えるモノ・コトが待っていそう。そんな漠然とした期待を胸にブラリ立ち寄っては毎度楽しめてしまう手と花 (TETOKA)。神田駅西側の歓楽街から少し距離を置いた界隈にある、通りにせり出さんばかりの何やら魅力的なオーラに思わず二度見してしまう人も多数のお店だ。

2013年オープンこの場所は、ギャラリーであり、カフェ／バーであり、音楽ライブやDJイベントまでもが行われる、変幻自在の趣味空間。骨董に古本にTシャツに雑貨に...と店内のあらゆるモノというモノがインテリアであり、

すべからく売りものでもある。皆一様に味わい深く、それぞれにストーリーを背負っている。

笑顔の絶えない店主・小林千絵子さんのあたたかいホスピタリティに心なごませつつ、ドリンク手にギャラリーの作品群をのんびり眺めて過ごすもよし。企画展が開催中なら、在廊する作家本人に気になった作品のことを教えてもらうもよし。初対面の好事家同志、小林さんに紹介され意気投合する、そんな人と人とのケミストリーが生まれたことだって数知れず。感性を揺さぶる「何か」をめぐる十人十色の時間がここにはある。



札幌を拠点に活動するデザインコンビ・ワビサビの二人による展示「HERE MAN」も。



直近で行われた企画展「プリクラ」では、印刷物をテーマにありとあらゆる紙モノの創作物がひと月に渡り展示・販売された。60名を超える作家が手がけた手作り冊子は一点ものも多数で、中にはあの高橋恭司氏が自らコピー機に頭を突っ込み、その毛髪のうねるさまを魚拓のように写し取った渾身の(?)一作も。

毎月第2日曜には参加者自身が各自モノを持ち寄るマーケット「神田蚤の市」、第4日曜には同じく古本を持ち寄る「神田古本市」。ともに大人・子どもを問わずアナログな手触り感、そして「これがスキ」というピュアな思いの数々に触れることができるのは、今のご時世こそ貴重。未知なるモノと感性に親しむこの充実のひとつ、他にはちょっと代え難い。

Our Winter Time



骨董も何も、みな縁あって今この場所に居る。



琴線に触れるのは作品だけにあらず。人の魅力も。



手と花 (TETOKA)

千代田区神田司町2-16 楽道庵1F

☎ 03-5577-5309

🕒 16:00~23:00

🗓 水曜日

イベントの日は、営業時間・定休日に変更あり

室内ゲームの古今東西。遊びの数だけ夢がある



「感染症カルタ」で、いまだかつてない興奮を。



カラーリングやデザインが目を引くものも多数。



冬時期にこそ頼りにしたい室内ゲーム専門店が、神保町北側・白山通り沿いにある。かるたや百人一首に始まり、花札、すごろく、チェスにパズルに麻雀牌。それに野球盤などのボードゲーム類だって。奥野かるた店には、小さな子ども向けのお楽しみはもちろん、大人にとっても「懐かしのアレ」に出会う以上の発見もあって、時間を忘れてしまうこと必須。

大正10年(1921年)、内幸町(当時は田村町)におもちゃ問屋として創業。戦後復興期の昭和25年ごろに神田に越してきて、小売店を開くのを機に昭和54年に現在の地に。少年少女なら誰しもが初代ファミコンに夢中だった80年代後半、ドラクエシリーズの発売日もなればお店の前に長蛇の列ができたことも。当時何かとここを頼りにしていたそんなかつての子どもが親になり、我が子連れで再来することだって珍しくない。

2階「小さなカルタ館」で展示されているのは、貴重なかるたや百人一首の数々。お店ではその時代その時代で取り扱ってきたアイテムの多くが一点一点大切に保存されており、その膨大なコレクションのほんの一部が、時節も踏まえたテーマごとに選り取りられ、ここで日の目を見る。平成も終わろうとする今のセンスからすれば、昭和のざっくりと大味なデザインやカラーリングは、もはや愛しいぐらい。



名画にアイドルスナップに。モチーフの王道ぶりが懐古趣味をそそる。

30年ほど前からはオリジナル商品の開発も手がけている。近年の注目作は「感染症カルタ」。ノロウイルス、O-157、エボラ出血熱などなど、ぱっと見にはハッピーとはほど遠くむしろダークなその筋の用語。絵もシュール。かるた遊びと聞いてイメージされる予定調和感を鮮やかに覆すこんな一品も、社長の奥野誠子(ともこ)さんの懐の深いセンスがあつてこそ。がらく問屋として歩んできたこのお店を、「小

売もやりたい」「メーカーとして商品を作りたい」とビュアな志を持って着実に大きくさせてきたのが、先代の父親。「2階の展示も今と違ってひと月ごとにまるっきりガラッと変えてましたし、張り切り者で偉いなぁとは思いつつも、私は私でマイペース。それでいいかなって」。彼女なりの色加わりつつ、奥野カルタ店はあと2年ほどで創業百年を迎える。



奥野かるた店

千代田区神田神保町2-26

☎ 03-3230-1041

🕒 月～土 11:00～18:00

日・祝 12:00～17:00

🗓 第2・第3日曜

HANG OUT MAP

illustration Mougi Kazuya

ぶらぶらマップ

A 12月10日(月)～14日(金) Move Arts Japan 展

～アーティストの旅の記録～

MAJの移動型レジデンスプログラムを通して、アーティストたちが日本の各地で収集した、作品へ昇華する直前の情報やアーカイヴ、ドローイングなど、貴重なリサーチの成果物を展示形式で発表します。

- ・時間 12:00～18:00 会期中無休
- ・会場 アーツ千代田 3331 1F 104



平成30年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業



B ～12月24日(月) 丸目龍介展

『miaou miaou ♥ KISS! KISS! ...miam miam』

丸目龍介によるフレンチロリータをテーマにした個展をアーツ千代田 3331のカフェ/レストランで開催。作家の多岐にわたる創作活動を俯瞰する最新作を中心に展示します。

- ・料金 1オーダーが必要となります
- ・時間 カフェ/レストランの営業時間に準ずる(詳しくはウェブサイトをご覧ください)
- ・会場 アーツ千代田 3331 1F COPAINS de 3331 / CHAMP DIVIN 3331内
- ・定休日 火曜日



- C 2018年12月31日(月) 師走大祓式、除夜祭
- 2019年1月1日(祝) 歳旦祭、初詣
- 2019年1月13日(日)～14日(月) だいくく祭

- ・場所 神田明神境内 神田明神ご社殿

*店は編集部が独自にセレクトしました。

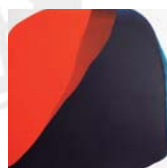
D 2018年12月9日(日)～'19年4月6日(土) 中島麦

※展示期間中、貸切日がございます。cafe104.5 ホームページにてご確認ください。

絵画を構成する根源的な3つの出来事「動き」「空間」「光」を限られた平面の中で表現しようと、2017年頃から始めたシリーズを主に展示。2次元でありながら3次元の感覚を呼び起こす、絵の具の流動的な表情をお楽しみください。

「動きと光の物語 - light / moving -」

- ・場所 ワテラスタワー 2F cafe104.5



神田のココにも
“TOKYO GOOD”



申込先： 前島敏正（ワテラス神田そば研）
☎090-6176-8082 / sobalier@gmail.com



SPEAK OUT!

演劇ワークショップ・オーディション体験レポート

Text ワテラスチューデントハウス 林 直樹 (上智大学 文学部・3年)
Photo Chie Maruyama



「メロン!」と叫んだ。「好きな果物のことを思いながら、“声で”それを正面の人に渡して」そう言われて、重く熟したメロンを渡そうと必死だった。ハイスタータスやロースタータス、上ハケに板付き。演劇の専門用語に埋もれそうになる。

今回は、演劇集団キャラメルボックスの劇団員が主宰するワークショップ兼オーディションに参加した。オーディションに合格すれば晴れてプロの劇団員さんとの共演が決まる、貴重な機会に恵まれた。発声練習から始まったワークショップでは周りには昔から演劇をしている方も多く、そのような方々の、声を出した時に空気が揺れる感覚に圧倒される。



演劇が扱うのは、人と人との関わりあい。コミュニケーションの本質への示唆もふんだんに含んでいる。



キャラメルボックスの人気劇団員・石川寛美氏から直々に教わるのも実に貴重な機会。

WHO'S TERRACE プロデュース
VOL.2 『ヒトミ』
2019年2月13日～17日
ワテラスコモンホールにて

脚本：成井豊・真柴あずき
演出：白坂恵都子
出演：大滝真実、石川寛美(以上キャラメルボックス)
森山栄治(*pnish*)他

発声以外にもいかに言葉だけで相手を動かし、それにどう身体の動きをつけていくべきなのかを練習する。二人組になってお互いに一つだけ与えられた言葉を相手に様々な感情をつけて伝える。次第に分かったことは、その言葉を使う人とそのシーンの想像をすることで演技ができる。演劇は面白い。演者も観客も想像力を働かせることで成立するのだ。

このように発声から身体の動き、そのほかアイコンタクトなど多くの演劇体験をした上で感じたことは、演劇には人間により人間味を持たせる力があるということである。おそらくそれは感情表現が豊かになるからであろう。感情の偉大さに気付かされた。ちなみにオーディションの結果は不合格。残念ではあるがとても楽しめた。間違いなく演劇への関心も高まり、オーディションに参加した身としては是非とも公演には足を運びたい。この経験を通して、少なからず私の中の何かが開花したような気がする。やはり演劇の力は奥深い。



オーディション。学びの成果を、台詞のひとつひとつにこめて。



各自の演技を、キャラメルボックス演出部・白坂恵都子氏が講評。向上の余地は一体どんなところにあるのか。



WE ARE AAM!

夜ごと輝く、このまちならではの明かり

ー ワテラスイルミネーション デザイン秘話 ー

冬時期恒例のワテラスイルミネーションは、今年も10月末より実施中。そのデザインもオリジナル色が強いユニークな美しさをほこるものですが、実はこれ、ここ淡路町のまちに根ざしたものであるのをご存知ですか？



各所で大小さまざまなイルミネーションが目につく冬の東京。ワテラスでも、この地域がもつ「らしさ」を全面的に感じさせる意匠の輝きで、ここを訪れる人々を迎え入れています。「おもてなしの灯り」をテーマに制作されたこれは、種々の雪華（せっか）模様が、クリスマスツリーをかたどるようにふわりふわりと点在しているというもの。

よく見れば、江戸以来にさかのぼるといって「いかにも」な雪華模様に混じり、平成感を匂わせるものも織り交ぜられていて興味深いです。ワテラスの「ワ、それに親指を立てた「いね！」の指サインをかたどったものも。

このデザインを手がけた生みの親として、ワテラス近隣の老舗「下久呉服店」の五代目・木村俊之さんには、回想されることが色々あるもよう。「デザイン性を追求しようとする、モチーフとなる雪の形から遠ざかってしまいますし、他の模様との調和が取れなくなります。それに形状や重さなど、電飾としてクリ

・ワテラスイルミネーション 2018

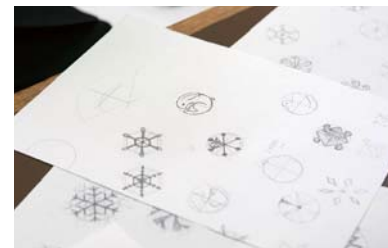
日程：2018年10月27日(土)
～2019年2月28日(木)
時間：17:00～23:00



クーラーも壊れた真夏の室内で、ひとり雪のデザインに悩み格闘したのもいい思い出(笑)



ワで「輪」が作られている。これすなわち人の「和」。



すべて創作かと思いきや、実は江戸時代から伝わるデザイン図案帳にあるというものも多く、意外。

アしなければならない制限もあって。そういったもろもろを乗り越えるのがなかなか大変で、考えたデザイン案の総数は確か40か50くらいにまでのぼったはずです。

でも「ちょっと窓から顔を出してば一つと眺めては、いいなあって思ってるよ。毎晩ね。」なんていうご近所さんの声は、このデザイン

としては初年度だった昨シーズンにとどまらず、今シーズンも。時間を経てなお、確かな手応えを感じている木村さんです。人情が息づくこのまちらしさを象徴的に表す「ワ」の雪華模様は、毎夜その暖かみのある幻想的な輝きで人々を魅了しています。

AAM[一般社団法人淡路エリアマネジメント]では賛助会員を募集しております！
会員特典当誌Free Awaji Bookをご送付。当誌を含む情報発信媒体へ会員様名を掲載。

- ・その他の詳細はこちらから
www.waterras.com/awaji_am.html
- ・ご登録・お問い合わせ
www.waterras.com/contact

千代田区観光協会
CHITODA CITY TOURISM

DJK 第一実業

ホテル龍名館お茶の水本店
HOTEL RYUMEIKAN OCHANOMIZU HONTEN

新しいコミュニティ作りへキックオフ!

